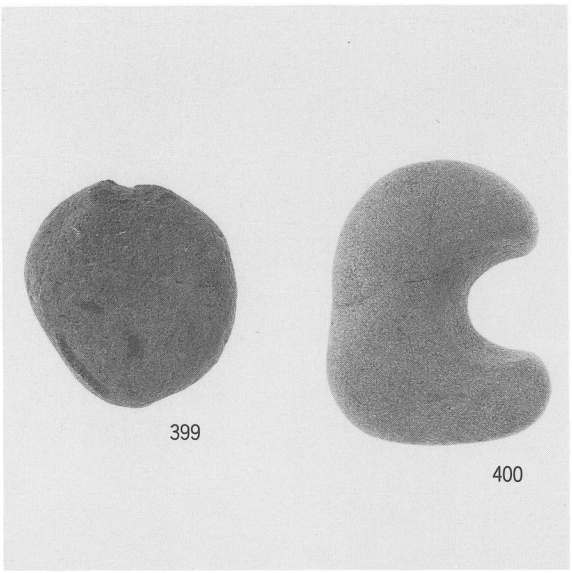
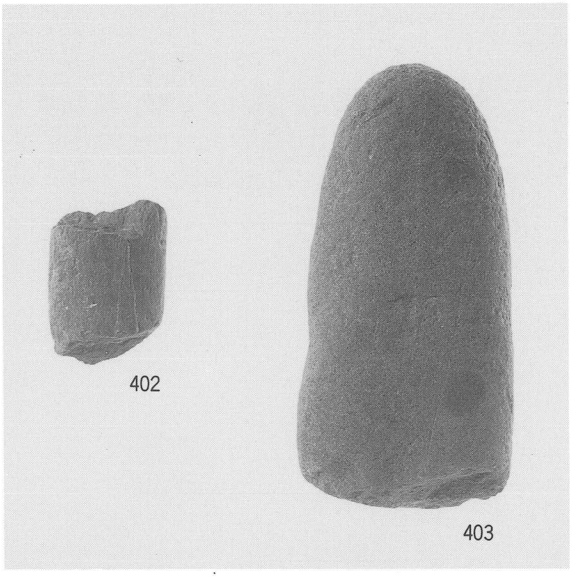
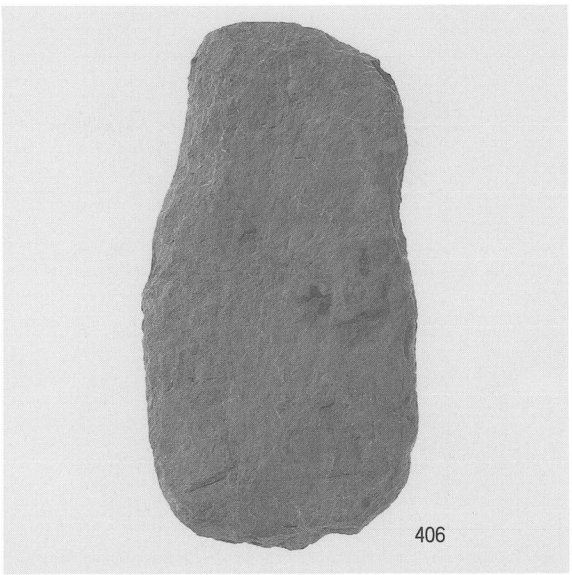
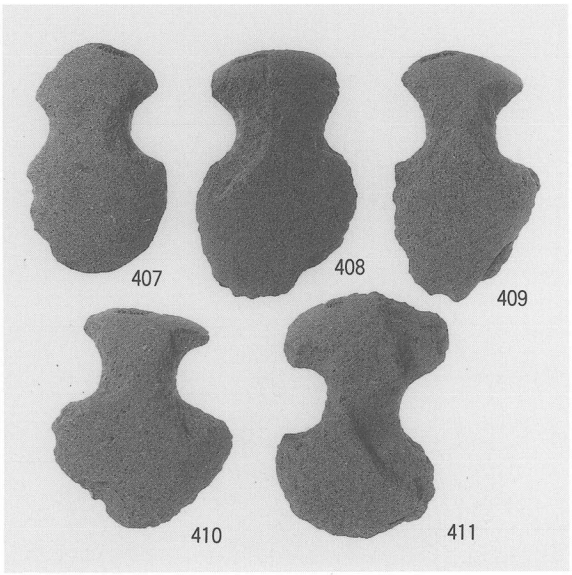
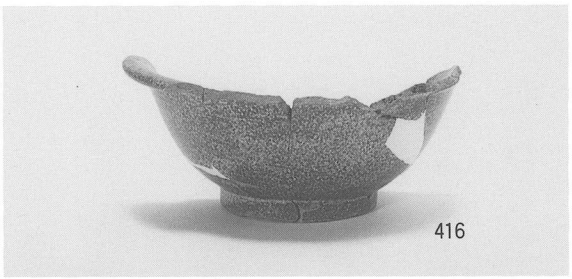


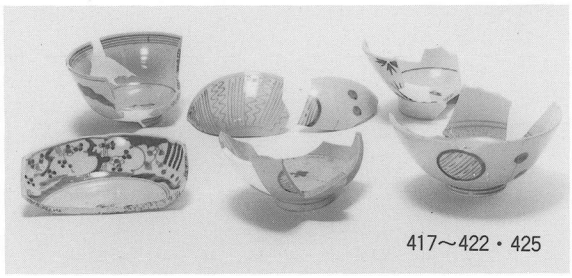


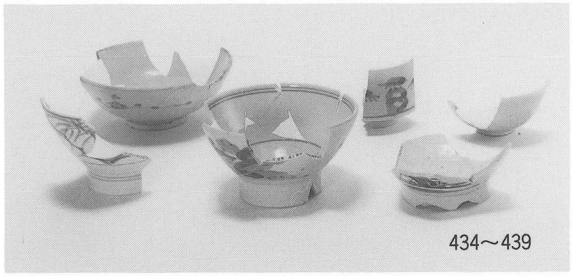




包 含 層 出 土 遺 物



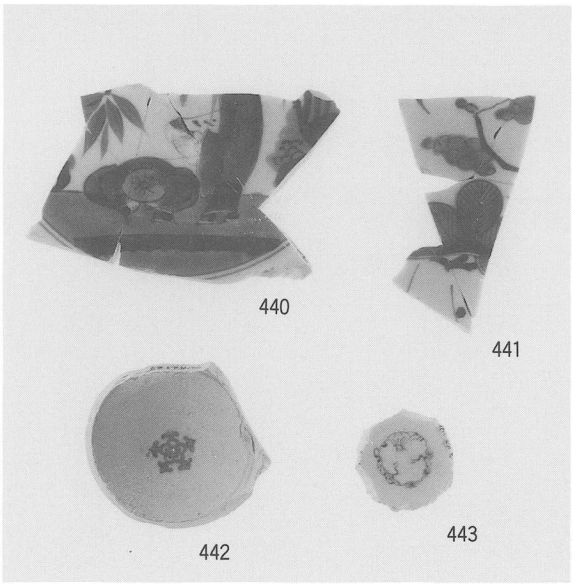




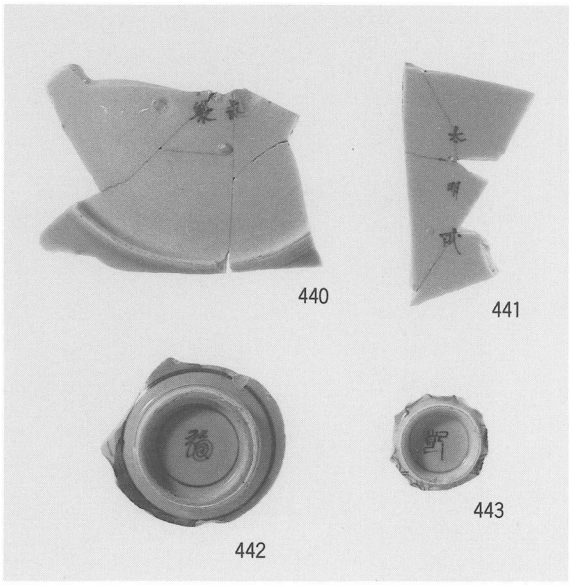
ＳＪ１・２　石積土坑出土遺物

包 含 層 出 土 遺 物

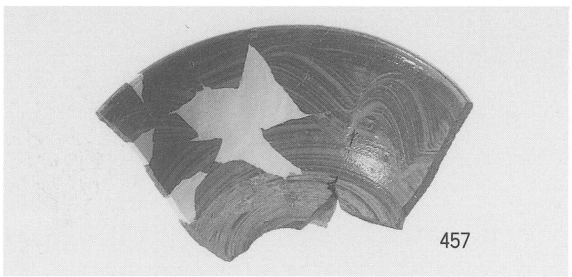
図版30

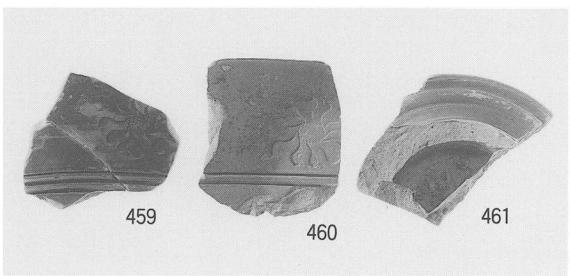


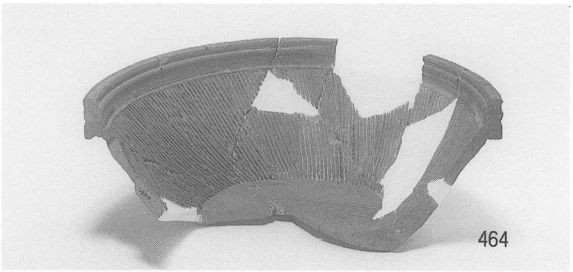
(内)

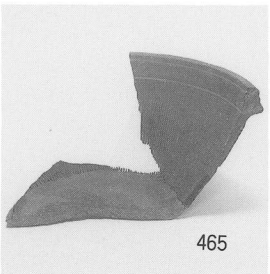


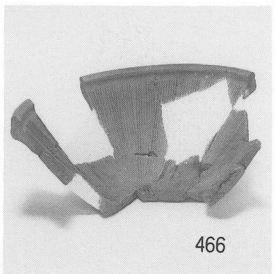
(外)

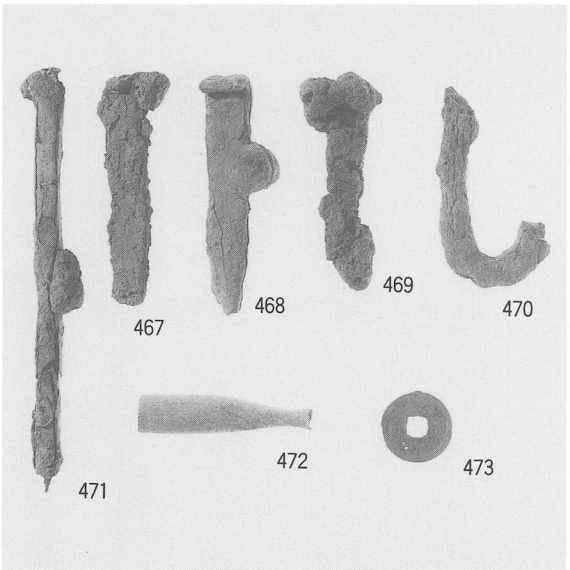












包含層出土遺物

附　　編

鶴野内中水流遺跡出土のウシの遺体

西中川　駿　・　塗木千穂子
（鹿児島大学獣医学科解剖教室）

1．はじめに

わが国のウシの出土例は、延べ遺跡数で270ヶ所も報告されており、そのうち九州では70ヶ所から出土している。時期的には中世が74ヶ所と最も多く、次いで平安、古墳時代である。

宮崎県内からのウシの出土例は極めて少なく、近年、余り田遺跡からの報告をみるのみである。

鶴野内中水流遺跡は、宮崎県東臼杵郡東郷町大字山陰字中水流にあり、平成９年６月～10月に宮崎県教育委員会が発掘調査を行い、弥生時代、古墳時代および近世の遺構、遺物が確認された遺跡である。当教室へ持ち込まれた動物遺体は、ウシ２体分のものであるが、現地調査時には、ウシ５才位の上、下顎臼歯やウマの臼歯も検出されていた。その後大洪水のため流出したため調査不可能となった。なお、今回依頼された遺物も完形骨はなく、小骨片のため同定に時間を要した。時期は不明とされているが、３号土坑で^{14}Ｃ測定で1780±40年となっており、他の土坑のものも近世のものと思われる。ここでは出土骨について、その概要を報告する。

2．出土状況

動物遺体の出土した土坑は、１～３号土坑と、４号堀立柱建物跡（ＳＢ４）を構成するピットからであり、１号土坑（ＳＡ12の北）からは、ウシの両側下顎骨片や上腕骨など14骨片が検出され、重量574.7ｇであり、１号ウシと呼称する。２号ウシは２号土坑（ＳＡ12の南）から出土し、左下顎骨、上顎骨、大腿骨など27骨片（歯を含む）がみられ、重量166.6ｇである。３号土坑の若いウシ（５才以下）の上、下顎臼歯およびＳＢ４のピットから出土したウマの臼歯は、洪水のため流失している。

3．出土骨の概要

１号ウシ（図版Ⅰの１～３参照）

１号ウシはＳＡ12北①～⑤⑦～⑨表示の骨片があり、①は左の第一～三後臼歯片を伴う部分の下顎骨であるが、計測不可能である。②は右の第四前臼歯から第三後臼歯を伴う上顎骨片と同じ下顎骨片で、両者がみ合った形で検出されている。第三後臼歯の歯冠長、歯冠中心高はそれぞれ35.3㎜、16.5㎜で、これから体高119.37㎝、年齢19.4才と推定される。③は左上腕骨で骨幹の下1/2の部分である。骨幹最小幅と径は、32.4×39.8（㎜）である。これら計測値から筆者らの方法で骨長を推定し、さらに体高を推定すると、114.1㎝となり、第三後臼歯のものより低く推定された。④中手骨片、⑤不明、⑦⑧中手骨片、⑨大腿骨片と思われるが、いずれも小骨片のため計測不可能である。

２号ウシ（図版Ⅰの４～９参照）

２号ウシはＳＡ12南①～⑨表示の骨片があり、①は大腿骨（右）で骨幹の一部分である。②距骨、踵骨および脛骨（いずれも左）で、③脛骨（右）、④中足骨片、⑤踵骨、距骨（右）、⑥⑦⑧は足根骨、中足骨片である。⑨は上顎の第二、三後臼歯と第三後臼歯を伴った左下顎骨片である。第三後臼歯の歯冠長は36.3㎜であり、これより筆者らの方法で下顎長を求め、体高を推定すると119.97㎝となる。また、歯冠中心高より年齢を推定すると、19.2才であり、かなりの老齢と思われる。

4．考察

本遺跡出土のウシは、近世のものと推定されているが、明治政府が洋種を導入し、改良される以前のウシであり、わが国古来の在来牛であることは確かである。

わが国にウシがいつ頃、どこから渡来して来たかは未だに確証は得られていないが、東京都の伊皿子貝塚から出土した弥生中期のものが、今のところ最も古いとされている（金子）。また、渡来経路としては北欧系のウシが、朝鮮半島を経由して、北部九州に入り、日本列島を南下または北上したと考えられ、本遺跡出土のウシもその末裔であろう。

現存するわが国の在来牛として、山口県の見島牛や鹿児島県十島村の口之島野生化牛がある。本遺跡出土骨は、これら在来牛のものとよく似ており、１号、２号ウシの推定体高119㎝は口之島野生化牛の雄のものとよく似た大きさである。

宮崎県からのウシの出土例は、ウマに比べて極めて少なく、最近検出された余り田遺跡（７～９世紀）のみにとどまる。余り田遺跡のものは120㎝前後のものであり、当時の人々によって農耕に使役されていたことがうかがわれたが、本遺跡のウシも老齢になるまで農耕や運搬のために飼養され、死後埋葬されたものと考えられる。

5．まとめ

宮崎県東郷町の鶴野内中水流遺跡（近世）出土のウシの遺体について調査した。

１、ウシの遺体の出土地点は、１号土坑（ＳＡ12の北、１号ウシ）と２号土坑（ＳＡ12の南、２号ウシ）であり、総重量741.3ｇである。

２、１号ウシは上顎臼歯や下顎骨片、上腕骨、中手骨、大腿骨などの小骨片が検出され、下顎第三後臼歯や上腕骨の計測値から体高114～119㎝と推定され、年齢19.4才と推定された。

３、２号ウシは下顎骨、大腿骨、脛骨、踵骨、距骨などの小骨片である。下顎の第三後臼歯の計測値から体高119.9㎝、年齢19.2才と推定された。

４、１号、２号ウシ共に老齢であること、頭蓋、四肢がみられることから、農耕などに使役され、死後埋葬されたのであろう。

参考文献

金子浩昌ら：第２号方形周溝墓西溝出土の家牛の頭蓋、伊皿子貝塚遺跡　pp476~486(1985)

宮崎県教育委員会：祇園原地区遺跡　pp91～93(1996)

〃　　：余り田遺跡　pp166～169(1998)

西中川駿ら：「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」
平成２年度文部省科学研究費（一般Ｂ）研究成果報告書　pp1~197(1991)

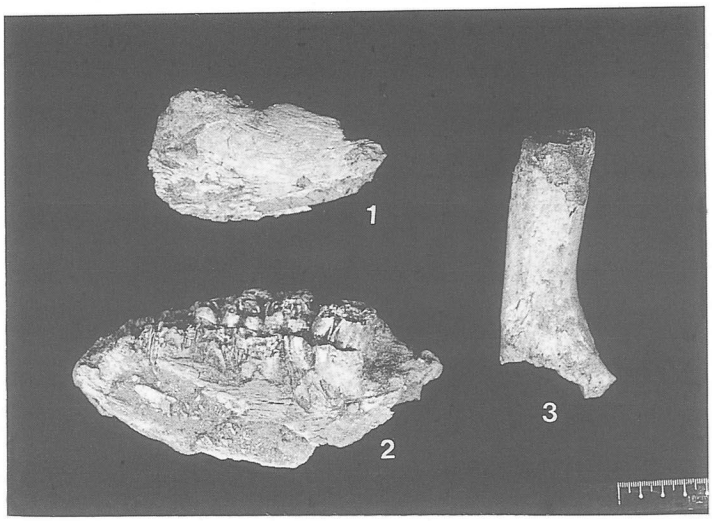
芝田清吾：日本古代家畜史の研究　pp100~108、学術出版会、東京(1969)

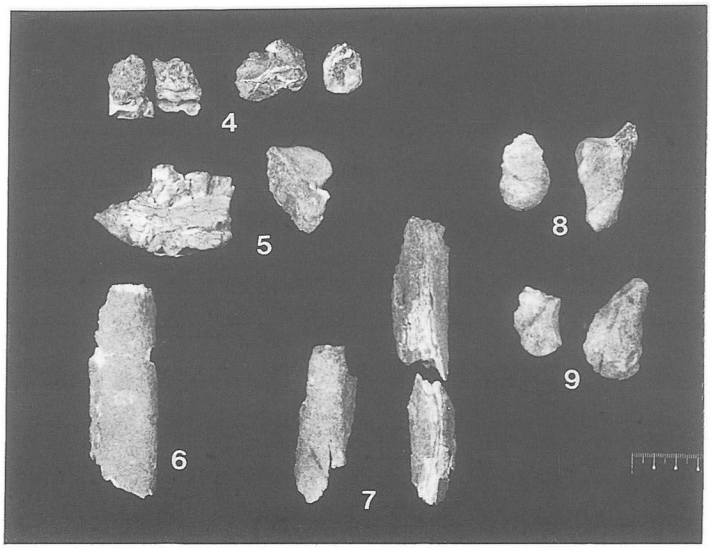
図版Ⅰの説明

１～３：１号ウシ、　４～９：２号ウシ

１．左下顎骨　２．右上、下顎骨　３．左上腕骨　４．左上顎臼歯　５．左下顎骨　６．右大腿骨

７．左、右脛骨　８．左から右距骨、左踵骨　９．左から左距骨、左踵骨


1
2
3


4
5
6
7
8
9

報告書抄録

フリガナ	ツルノウチナカヅルイセキ
書名	鶴野内中水流遺跡
副書名	特定交通安全施設整備事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第16集
編集者名	高橋　誠
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒880-0053　宮崎市神宮２丁目４番４号
発行年月日	1999年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ツルノウチナカヅル 鶴野内中水流遺跡	ヒガシウスキグントウゴウチョウ 東臼杵郡東郷町 オオアザヤマゲアザナカヅル 大字山陰字中水流	32°23′16″ 付近	131°30′55″ 付近	1997.6.2 ～ 1997.10.3	2,000	特定交通安全施設建設に伴う発掘調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落	弥生・古墳・近世	竪穴住居跡　34 掘立柱建物跡　13 土坑　7 竈跡　4	弥生・古墳土器 須恵器、陶磁器 石器、鉄器など	耳川流域の大規模集落 瀬戸内系土器の出土

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第16集

鶴野内中水流遺跡

特定交通安全施設整備事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

発行年月日　1999年3月
編 集 発 行　宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0053　宮崎県宮崎市神宮2丁目4-4
TEL 0985-21-1600　FAX 0985-26-2634
印　　刷　株式会社 都城印刷
〒885-0055　宮崎県都城市早鈴町1618番地